

わ く わ く

6月号

本 だ な

1 2 3 年



E 『 うそうそかわうそのむかしばなし 』

えほん

はやしますみ／作 小学館

むか～しむかし。さめがそらをとぼうとして、「えいっ」とジャンプしたから、<えい>とよばれるようになりました。<はくちょう>は、「はっくちょーん」と、くしゃみをしたから。えっ、それほんど？うそうそうそんこむかしばなし。

E 『 じてんしゃ がしやがしや 』

えほん

かさいまり／文 山本久美子／絵 絵本塾出版

ゆうたのじてんしゃは、ほじょりんつき。おとうさんに、はずしてもらうやくそくをしています。

ともだちは、とっくにはずしちゃったのに、おとうさんはしごとでとおいにっています。はやくかえてこないかな。



K913 『 おかわりへの道^{みち} 』

ものがたり

山本悦子／作 下平けーすけ／絵 PHP 研究所

たべるのがおそいかすみは、先生がきゅうしょくのあまったごはんで作ってくれるおむすびをおかわりすることができません。どうしてもたべてみたくて、くいしんぼうのげんちゃんに、おなかをぺこぺこにするさくせんをおしえてもらいました。

E 『 ラッコのたんじょうびケーキ 』

ちしきのほん

公文健太郎／写真 高岡昌江／文 篠本映／絵 ほるぷ出版

きょうは、ラッコのパタのたんじょうびです。カラフルな水でつくったケーキをもらいました。

パタはおばあちゃんだけど、げんきいっぱい。ごはんをもりもりたべて、しゅうがかりさんとは手をつかっておはなしをします。



としょかんのまどぐちには、くみだてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉 富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200

わ く わ く

6月号



本 だ な

4 5 6 年



物語

K913 『しりとりボクシング』

新井けいこ／作 はせがわはっち／絵 小峰書店
恭平は、四年生全員が参加するしりとり大会で、ゆうしょうをねらいます。友だちの健太は、辞書を読んで、いろいろな生き物の名前を調べるようです。

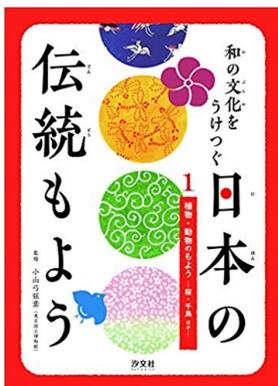
<ルーマニア>などの「る」で始まる言葉は、数が少ないので、対さくが必要です。さらに、恭平は<カーニバル>など、「る」で終わる言葉もおぼえることにしました。

K913 『さよなら、ぼくらの千代商店』

物語

中山聖子／作 岩崎書店
塾をさぼり、バスに飛び乗った英太がたどりついたのは、昔住んでいた穂足町の千代商店でした。

「もっと遠い場所にあったはずだけど。」とふしぎに思いながら店に入ると、なつかしい千代ばあちゃんがあらわれました。英太は、ばあちゃんと話しているうちに、幼稚園のころ仲良かったショウヤ君のことを思い出します。



ちしきの本

K727 『和の文化をうけつぐ 日本の伝統もよう 植物・動物のもよう 桜・千鳥ほか』

小山弓弦葉／監修 汐文社

食器やお守り、ゆかたなど、わたしたちの身のまわりには、日本に古くから伝わるもようが、えがかれています。

ふろしきによく使われる、緑地にうずまきの白い線は唐草模様です。植物のつるがどこまでも続いて、えんぎがいいといわれています。七五三に食べる千歳飴のふくろには、健康や長寿を願う、つるやかめ、松が見られます。

図書館のまどぐちには、くみたてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200